

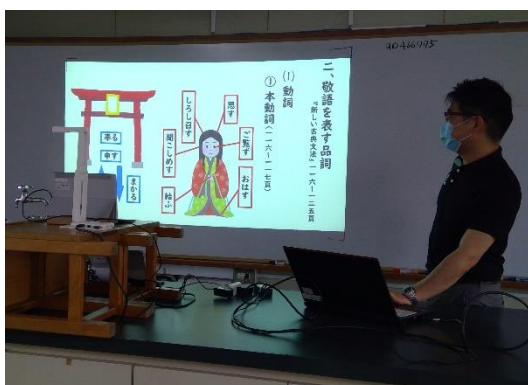
今回は、新型コロナウイルス感染症対策の中で行われた国語科の取り組みに関し、お伝えいたします。

◇ その1 自宅待機期間の課題

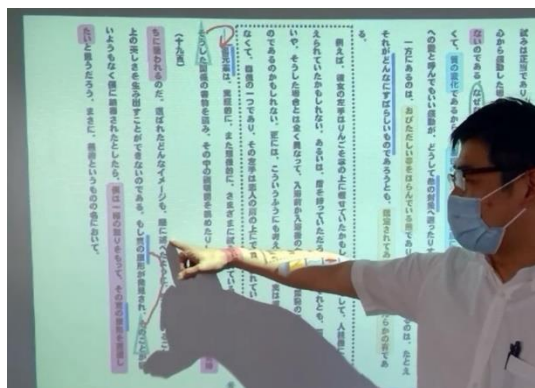
各学年、各教科ごとに自宅学習用課題を用意し、所定のホームページ上にアップすることで、学習の道標となる指示を生徒全員に行った。これにより、取り組むべき内容を生徒に提供することはできたと思われる。もっとも、それらに対する生徒一人一人の取り組みがどの程度であったかを測ることは難しく、一方向的な課題の提示にとどまってしまったように感じられる。今後の課題として、生徒が課題をどこまで達成しているかを教員が把握する方法を工夫しなければならない。

◇ その2 web会議システムを利用したオンライン学習支援

主に Microsoft の PowerPoint を用いて作成したスライド教材をプロジェクターで投影。教室に設置されたカメラに向かって授業の様子を撮影し、これを配信するという方法でオンライン学習支援を行った。事前にシミュレーションを経て、いくつかの修正を加えたうえで実施した。例えば、スライドの背景を黒にしてしまうと、カメラの照度が安定せず非常に見づらい映像となってしまったため、背景は白に統一したことはその一つである。一回の学習内容をなるべくコンパクトにまとめ、図や表を示すことで、スマホ等の小さな画面で視聴する生徒にも解りやすくなるよう心掛けた。



学習支援準備の様子



実際に配信された学習支援の様子

◇ その3 対面授業再開後の対応

対面授業再開当初は、オンライン学習支援との併用によって授業が進められた。例えば、より双方向的なやり取りを授業に取り組み必要性が認められる現代文を対面授業で指導し、比較的知識の伝達が重視される古典をオンラインで指導するなど、科目の特性に合わせて対面・オンラインの授業スタイルを選択した。

◇ その4 現状と今後の課題

すでにすべての生徒が毎日学校に通い、時間割の全てで対面授業が行われるようになってから3～4カ月が経過した。しかし、今なおコロナ禍以前のような授業は実施できないでいる。なかでも、感染予防対策としてペアワークやグループワークが禁止されている影響は大きい。この状況で「主体的・対話的な深い学び」を実践し、生徒の「深い学び」に資する授業を行うにはさらなる創意工夫が必要と感じられる。